

漂白される少女たち

ジャーナリストが見た子どももの性産業

開沼博
講演会

2013年12月7日（土）

14：00－16：30

会場：女性就業支援センター
第1セミナー室

定員：80名（先着順）

参加費：500円

主催：NPO法人しあわせなみだ

<http://shiawasenamida.org/>

「ホームレスギャル」「移動キャバクラ」「援デリ少女」・・・
「自由」で「平和」な現代日本の闇に隠された真実、先入観と偏見で見過ごされた矛盾と現実を描いた書籍『漂白される社会』。
著者である開沼博さんに、現代日本の「子どもの性産業の現実」そして「制度化されていない性売（売春）の状況」について、お話いただきます。

性を売る少女たちは、社会に蔑まれながら、大人たちを翻弄してきました。
少女たちは今、この社会から「漂白」され、その色を失いつつあります。
「あってはならぬもの」として社会から隔離・固定化され、不可視化された現実があります。

少女たちが大人の日常から「見えなくなった」、あるいは、大人が「見て見ぬふりをしている」現実。
まず私たちにできることは、少女たちに潜む闇から目を背けることなく、闇を闇として見つめることです。
グローバル化の表層からこぼれ落ちた真実を見抜き、「現代社会とはいかなる社会なのか」という問いに、一人ひとりが何らかの希望を見出していく、そんな講演会です。是非お越しください。

■講師プロフィール

開沼博（かいぬま・ひろし）

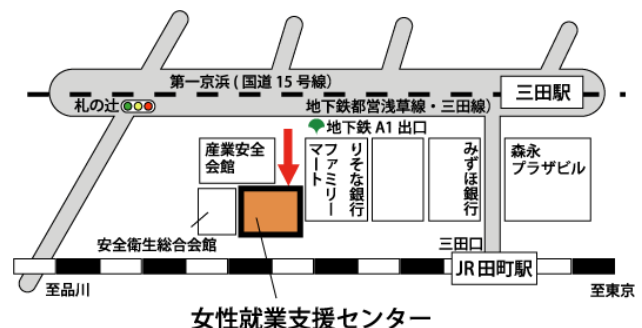
1984年福島県いわき市生まれ。福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員。東京大学文学部卒。同大学院学際情報学府修士課程修了。現在、同博士課程在籍。専攻は社会学。

著書に『漂白される社会』（ダイヤモンド社）『フクシマの正義「日本の変わらなさ」との闘い』（幻冬舎）『「フクシマ」論 原子カムラはなぜ生まれたのか』（青土社）

『地方の論理 フクシマから考える日本の未来』（同、佐藤栄佐久氏との共著）『「原発避難」論 避難の実像からセカンドタウン、故郷再生まで』（明石書店、編著）など。学術誌の他、「文藝春秋」「AERA」などの媒体にルポ・評論・書評などを執筆。

第65回毎日出版文化賞人文・社会部門、第32回エネルギーフォーラム賞特別賞。読売新聞読書委員（2013-）。

■会場までの地図



【女性就業支援センター 第1セミナー室】

東京都港区芝5-35-3

JR田町駅三田口（西口）から徒歩3分

都営浅草線、三田線三田駅 A1出口から徒歩1分

<http://www.joseishugyo.go.jp/shisetu/access.html>

■参加申込・問い合わせ

メールにてお申し込みください

- ・件名に「12/7講演会参加希望」、本文に「氏名（フリガナ）※ニックネームも可」を入力し、送信してください
 - ・メールアドレス：info@shiwasanamida.org
- ※携帯メールからお申込みをいただく場合
@shiwasanamida.orgからのメールが受信できるよう、設定をお願いいたします